

信州大学医学部附属病院 血液内科に  
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ  
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2017年5月25日

「T/NK 細胞リンパ腫／白血病の病態に関与する遺伝子の全エクソン解析による検索」に関する臨床研究を実施しております。

信州大学医学部医倫理審査委員会の審査による医学部長の承認を得て、調査を行っています。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	410
研究課題名	T/NK 細胞リンパ腫／白血病の病態に関与する遺伝子の全エクソン解析による検索
所属(診療科等)	信州大学医学部 保健学科 病因・病態検査学 信州大学医学部 第二内科
研究責任者(職名)	信州大学医学部 保健学科 病因・病態検査学 石田 文宏(教授)
研究実施期間	倫理委員会承認日～平成30年2月28日
研究の意義、目的	<p>T細胞、NK細胞などの顆粒リンパ球は通常ウイルスや癌などに対して免疫力を発揮するタイプのリンパ球です。それらのリンパ球が増加する顆粒リンパ球増多症は、貧血や白血球減少、血小板減少を引き起こし、輸血や感染症治療を必要とする事があります。</p> <p>顆粒リンパ球増多症は非常に稀な疾患という事もあり、病態に関する遺伝子の研究は多くはされておりましたが、STAT3という遺伝子の変異がT細胞性顆粒リンパ球増多症にて認められるということが分かり、病態への関与が考えられるようになりました。顆粒リンパ球増多症の中でも、アグレッシブ NK細胞白血病は非常に稀な疾患である上に、予後が不良であり、今回それら症例において、全エクソン解析を行い、関連遺伝子変異を検索し、病態との関連を検討する方針です。</p> <p>遺伝子はエクソンとイントロンという部分から成っており、エクソン部分が遺伝情報を持ち、イントロンはその間を埋める遺伝情報を持たない部分です。今回は、病気の細胞と正常細胞のすべてのエクソン部分の検査を行い、病気の細胞で遺伝子の変異があるかどうかを検討します。</p>
対象となる患者さん	これまで顆粒リンパ球増多症(アグレッシブ NK細胞白血病)と診断を受けた方。
利用するカルテ情報／検体	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果など／血液、組織など
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、遺伝子変異と各種診療記録との関係性の有無について検討します。

共同研究機関名	Helsinki University Central Hospital(責任者 Prof. Satu Mustjoki) 島根大学医学部 腫瘍・血液内科 (責任者 鈴宮淳司先生)
問い合わせ先	信州大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻 病因・病態検査学 教授 石田文宏 電話:0263-37-2391 FAX:0263-32-2391

他機関への試料・情報の提供方法 : 記録媒体、郵送、電子的配信により提供します。

研究代表者 : Helsinki University Central Hospital(責任者 Prof. Satu Mustjoki)

**既存の検体や診療記録(カルテ情報)、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。**

**利用する情報からは、患者様を直接特定できる個人情報を削除し、主任施設である Helsinki University Central Hospital に提出します。**

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

**この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。**

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。